

冬の巡検は12月20日(土) 生麦～鶴見市場界隈を歩きます

平成26年第2回巡検は、年末の京浜地帯、生麦～総持寺～鶴見市場界隈を歩きます。

集合：京浜急行「生麦」駅改札

日時：平成26年12月20日(土) 10時

講師：伊藤 等先生 (日本大学)

コース：京急生麦駅→生麦事件碑・旧東海道筋→生麦事件現場→鶴見川干潟→JR鶴見線国道駅→総持寺→(鶴見駅界隈にて昼食)→鶴見橋関門旧跡→鶴見

川橋→市場村一里塚(旧東海道)→午後3時頃、京浜急行鶴見市場駅到着(天候の都合などで変更する場合があります)

解散：15:00頃(予定)

参加費：1,000円(資料・レジャー保険他)

定員：20名(会員以外の方も参加できます)

保険加入のため参加ご希望の方は12月12日まで地図情報センターまでご連絡下さい。ホームページ(<http://chizujoho.jp.org>)からも参加申込ができますのでご利用下さい。開催1週間前を目途に参加要領(集会所地図等)をお送りします。

展覧会情報

にほんのうたと鉄道

会場 旧新橋停車場 鉄道歴史展示室

電話 03-3572-1872

期間 8月5日～11月24日

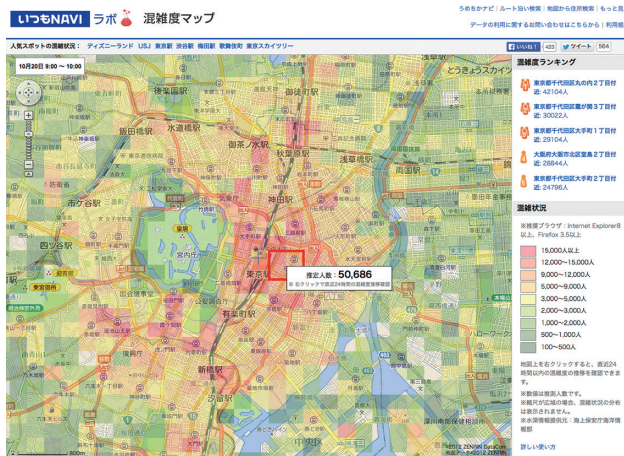
江戸の風景—町絵図を中心に

会場 千秋文庫

電話 03-3261-0075

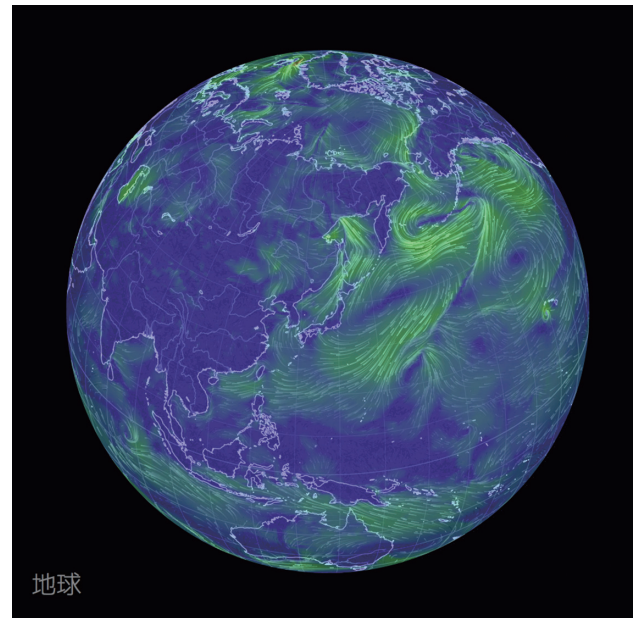
期間 9月9日～12月6日

mini地図NEWS



混雑が見える「混雑度マップ」

(株)ゼンリンデータコムが提供する「混雑度マップ」は、GPS対応携帯電話ユーザーから許諾を得て送信される位置情報の分布を日本の総人口に当てはめ推計しています。混雑の色は9段階、地図上で右クリックすると直近24時間の混雑度推移がグラフで示されます。都心と郊外での時間による混雑度推移の違いが見えたり、時間ごとにマップ画像を並べると人の移動がみえたりと、教育目的にも使えるマップです。(Internet Watch他)。



風の流れを可視化した「earth wind map」

アメリカ国立気象局の気象データを使って、地球に吹いている風の流れをリアルタイムで可視化したサイトです。風の更新は3時間ごと、海流は5日ごと。地上から成層圏までの風を表示でき、偏西風などをビジュアルに見ることができます。作者はCameron Beccario氏。(THE BRIDGE他)。

地図絡み

第59回 2形式による色刷地形図(分布)記号

帝京大学理事 井口悦男

今回、本誌は種々の分布図を取りあげると聞く。附録のICICニュースも関連して、地形図記号を大別した2形式について眺めるとしよう。記号類別として、すでに触れてきたが、改めて、地形図上の地形、地物表現記号は、いずれもそれらの地表面上の広がり、すなわち、分布地域を表示するに外ならないから、地形図は分布図のひとつと言える。

なお例示図として、2万5千分1都市近郊図群中、5色刷大版特定図の「東京西部近郊」(大正6年測 昭和2、3、4、6年修正、昭和6年7月30日発行、陸測)に求め、首都都心周辺の景観にも触れておく。

要点は、大部分の記号に採用された「細線描」にもとづくものと色刷図に採用された、分布域全体を一定の色別で比較的少数に使われた「面描」による方式のものに分れる。

線描には、明治以来第2次大戦後の復興期の図改描期まで、各図(1万分1~5万分1)を特色づけてきた装飾線(海岸線、河川、湖沼、貯水池など)、各岸辺を強調する多重平行線模様が見られる。また面描域では、その全域色描されたなかに、線描記号の水田、乾田(二毛作田)、あるいは竹林などを含めた各種森林記号が重ねられるばあも見られる。茶畑、桑畑、果樹園、草地の各特定小線描が作定されているが、前記の水田、森林地域のように色刷図にあっても、その下地に面描としての塗色は採用されていない。市販図中には地形図方式図描図に、柑橘園、りんご畑、ぶどう畑、茶畑、桑畑など、全国各地それぞれ一定以上の面積をしめる産地に、その産物を予測できる薄色で蔽う面描を取る例もある。いずれも一般的線描で分布域は特定された筈のところを、さらに地域を目立たせ、強調するため、色による面描を



図1 JR山手線恵比寿駅付近の森林残存地 白金御料地、林業試験場、(目黒)不動堂(以上緑色面描+植林地線描)、加えて武蔵野に切込む目黒川の谷間北側急崖面(茶色等高線の線描)がよく表示される海軍技研域。技研はこの崖の松林を境に上下に分かれていた。(約80%縮小)



図2 山手線の外側(西)近くの武蔵野の谷に残存水田地の頭、そこが都市と農村の境。現西武新宿線中井と新井薬師両駅間に、山手線接続駅から2と3駅目で、平行する妙正寺川の谷に水田域が見えはじめる。(110%拡大)

色刷図では加刷させる。

ところで、20万分1帝国図の海岸から海洋の表現は、2つの装飾線から見て、東西方向に平行線を重ねた線描方式によるもので、その単純線に変化を与えているのは、海岸寄りに線の水色をやや濃くし、沖合へ順次色を白に近く薄くする。色差を横線に施す細かさを見せる方式を取る。

いずれにせよ、線描、面描のうちである。ところで、第2次大戦後の図改描後に見られる、図描に注目される場所は、手の込んだ職人技的描法は、順次、技術的簡易表現に置き換えられている傾向にあることである。技術を要する微妙な線幅は姿を消して久しい。大きな変化は、そのような線描記号は、単純な一色塗りの面描とされた。

海岸から海は同一の「水色」面となり、幅広河川も、川幅一杯、単純に水色化され、満々と水一杯で平板化されてしまっている。言うならば、面描域が線領域から相対的に増やされることで、地形図全体の図描低下が及ぶ。確かに、敗戦直後の一時期、海岸線中、都市、漁港域周辺の土地造成、埋立が軌道に乗りだすと、その部分の図改描応急版で、海岸線改描以上に難儀のあと濃厚と見られたのは、外ならぬ、何層にも美しく描かれた曲線模様のツギハギの哀れさであった。精巧に組みあげられていた分補修の跡歴然とし、完全改描以外、品位は保てなかった。一気に単純化に変更されて昔日の威、よみがえらず現在に。

(14.10.18)

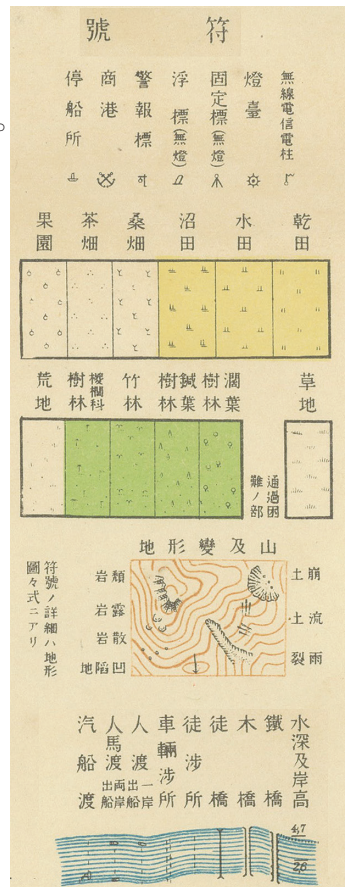


図3 符号例、黄と黄緑の面描例と黒、茶、水色による線描のあることが分かる。